

平成29年度 第5回

希望郷いわてモニターアンケート  
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

平成30年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

## I アンケート調査の概要

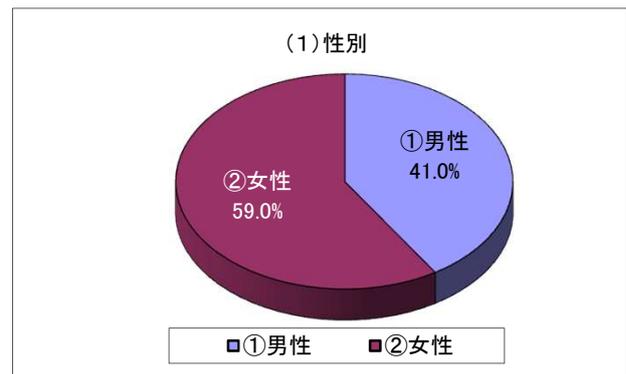
- 1 調査課題名  
食の安全安心及び食育に関する意識調査
- 2 調査の目的  
岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。
- 3 調査期間  
平成30年1月26日（金）から2月13日（火）まで
- 4 調査方法  
調査紙郵送及びインターネット
- 5 調査対象  
平成29年度希望郷いわてモニター 276名
- 6 回答者数  
217名
- 7 回答率  
78.6%

## II アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

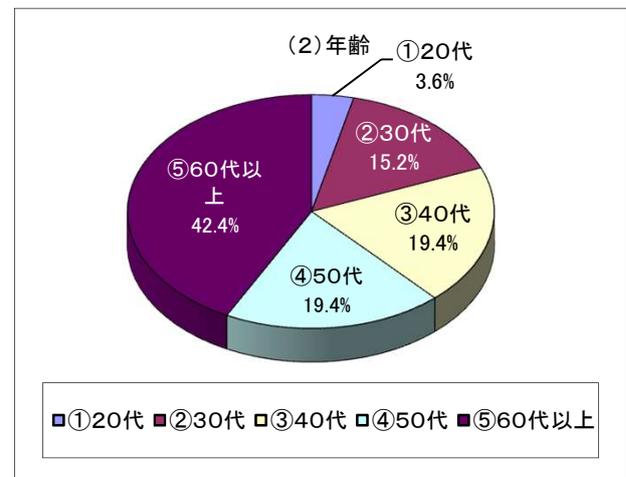
(1)性別

①男性	89
②女性	128
計	217



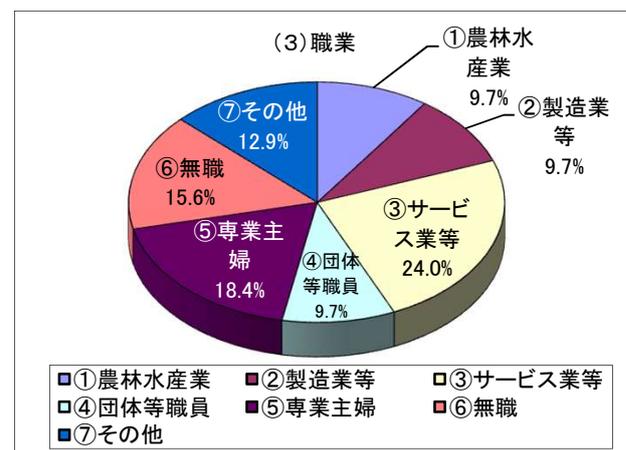
(2)年齢

	合計	男性	女性
①20代	8	1	7
②30代	33	15	18
③40代	42	12	30
④50代	42	16	26
⑤60代以上	92	45	47
計	217	89	128



(3)職業

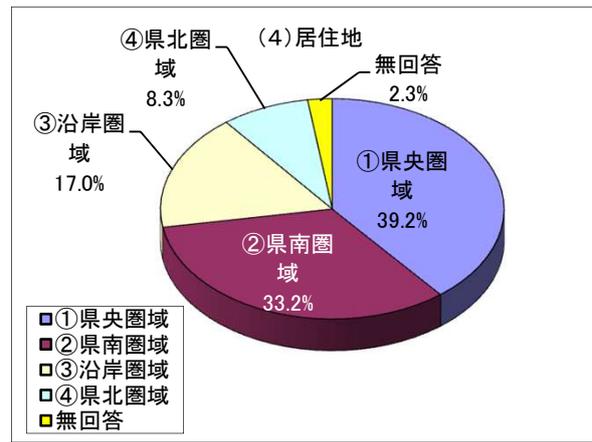
	合計	男性	女性
①農林水産業	21	15	6
②製造業等	21	12	9
③サービス業等	52	23	29
④団体等職員	21	7	14
⑤専業主婦(主夫)	40	1	39
⑥無職	34	22	12
⑦その他	28	9	19
計	217	89	128



※「その他」の内訳: アルバイト、パート、建設業、自営業、福祉関係、学生等

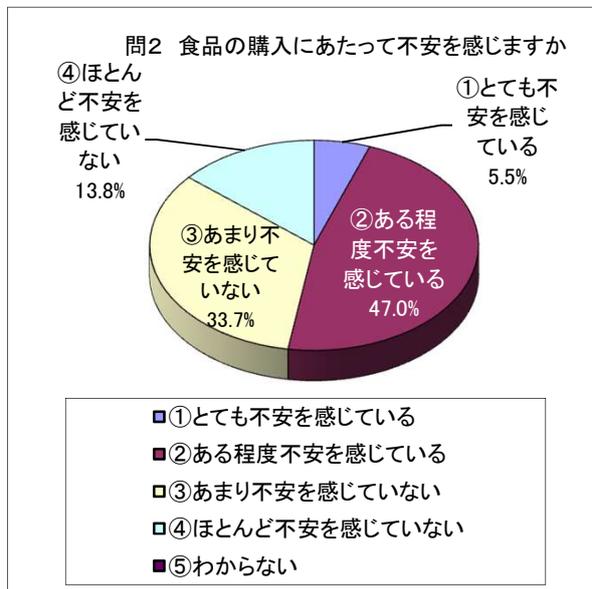
(4)居住地

①県央圏域	85
②県南圏域	72
③沿岸圏域	37
④県北圏域	18
無回答	5
計	217



問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

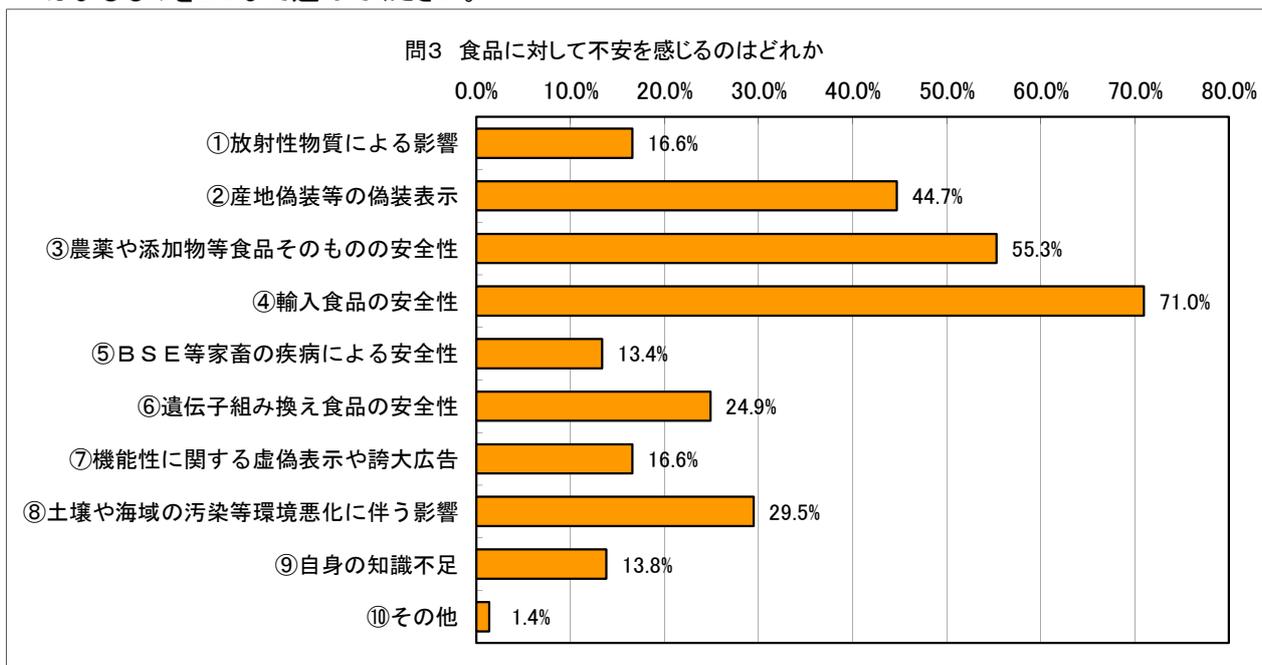
①とても不安を感じている	12
②ある程度不安を感じている	102
③あまり不安を感じていない	73
④ほとんど不安を感じていない	30
⑤わからない	0
計	217



食品購入に当たって不安を感じている人は52.5%を占めており、不安を感じない人の47.5%を上回っている。

また、前回(平成29年1月調査。以下同じ)の53.1%から減少している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

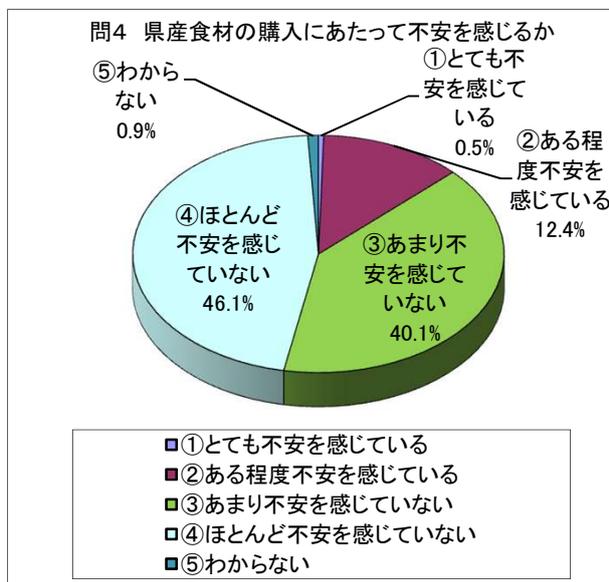


不安を感じる理由は、前回調査と同様に、④輸入食品の安全性(71.0%、前回70.3%)が最も多く、次いで③農薬や添加物等食品そのものの安全性(55.3%、前回55.4%)、②産地偽装等の偽装表示(44.7%、前回41.4%)の順に多かった。

なお、①放射性物質による影響は16.6%と、前回(21.2%)よりも減少している。

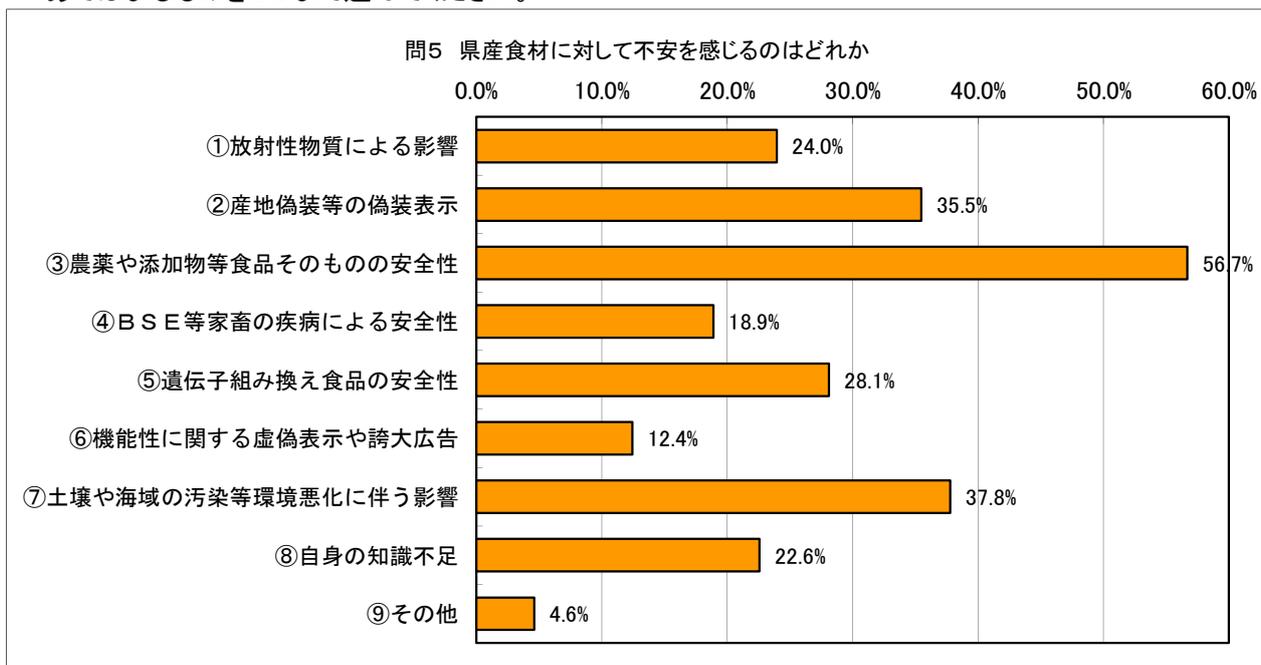
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	1
②ある程度不安を感じている	27
③あまり不安を感じていない	87
④ほとんど不安を感じていない	100
⑤わからない	2
計	217



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は12.9%(前回14.9%)となっており、不安を感じない人の86.2%(前回84.2%)を大幅に下回っている。

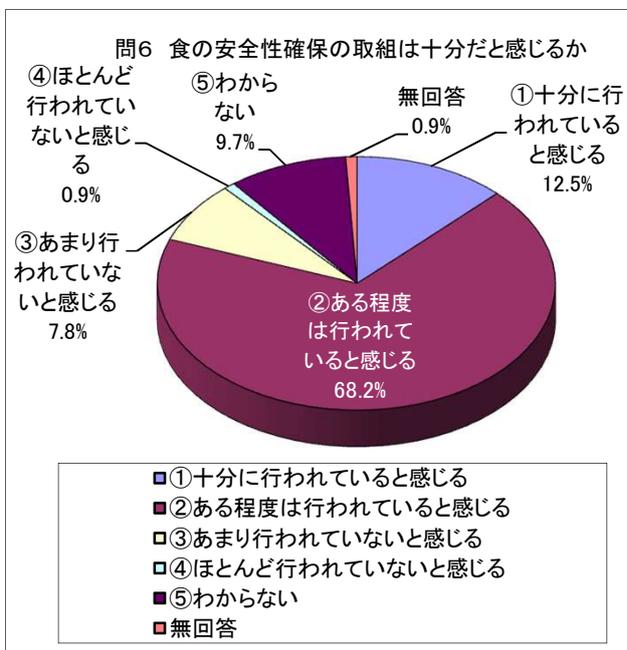
問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



県産食材の購入に不安を感じる理由は、前回調査と同様に、③農薬や添加物等食品そのものの安全性(56.7%、前回60.4%)が最も多く、次いで⑦土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(37.8%、前回37.8%)、②産地偽装等の偽装表示(35.5%、前回37.8%)の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

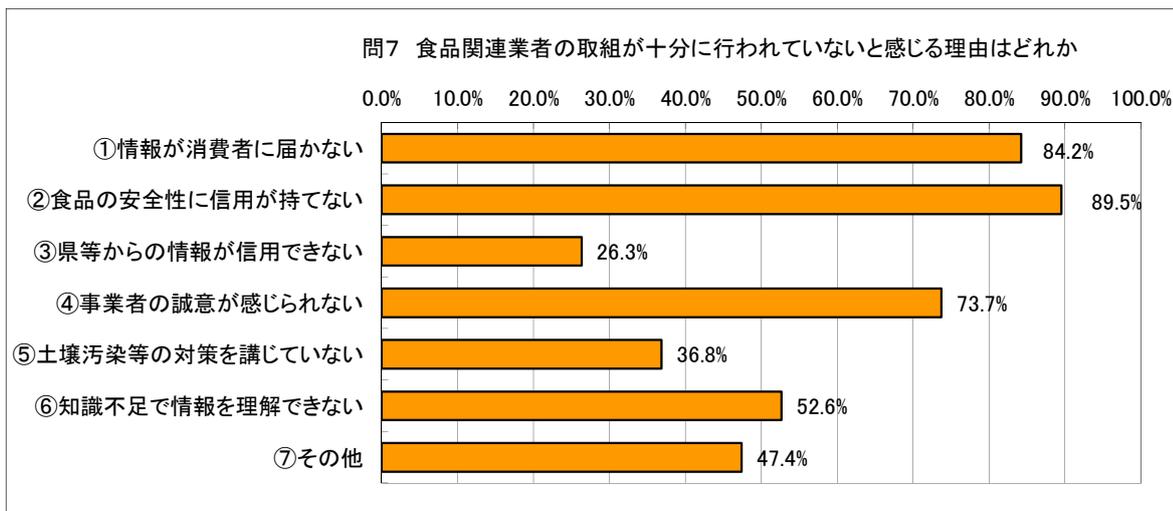
①十分に行われていると感じる	27
②ある程度は行われていると感じる	148
③あまり行われていないと感じる	17
④ほとんど行われていないと感じる	2
⑤わからない	21
無回答	2
計	217



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、全体の約8割(80.7%、前回81.5%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている結果となった。

問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きします。

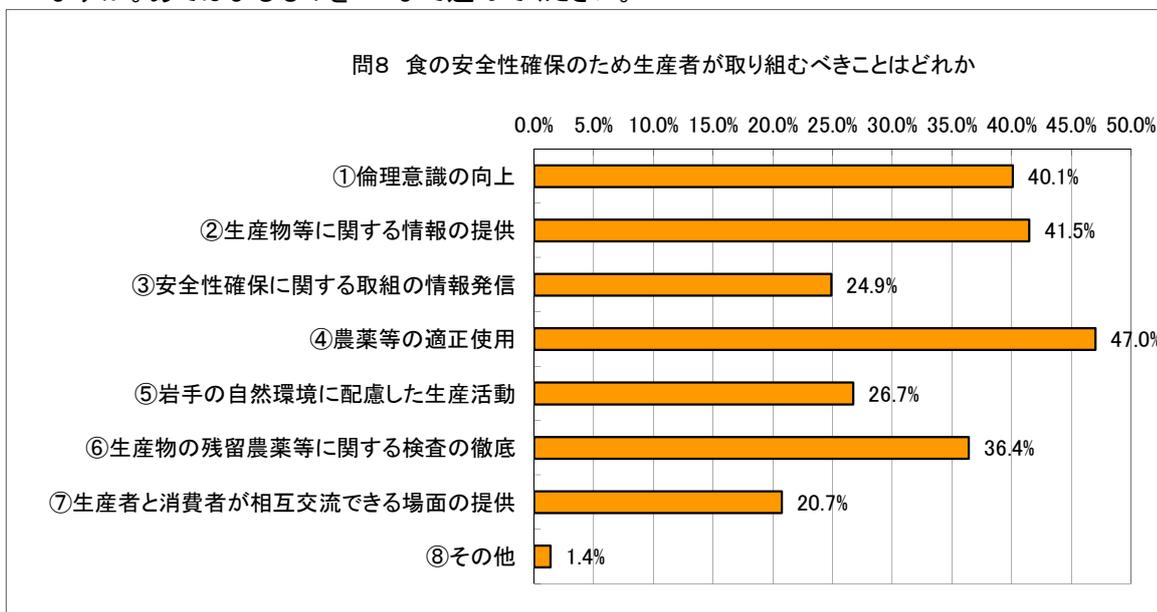
あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 形だけの取組、外国産食品と国内産の紛らわしい陳列等

安全性確保の取組が十分ではない理由は、②食品の安全性に信用が持てない(89.5%、前回66.7%)が最も多く、次いで、①情報が消費者に届かない(84.2%、前回80.0%)、④事業者の誠意が感じられない(73.7%、前回20.0%)の順に多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



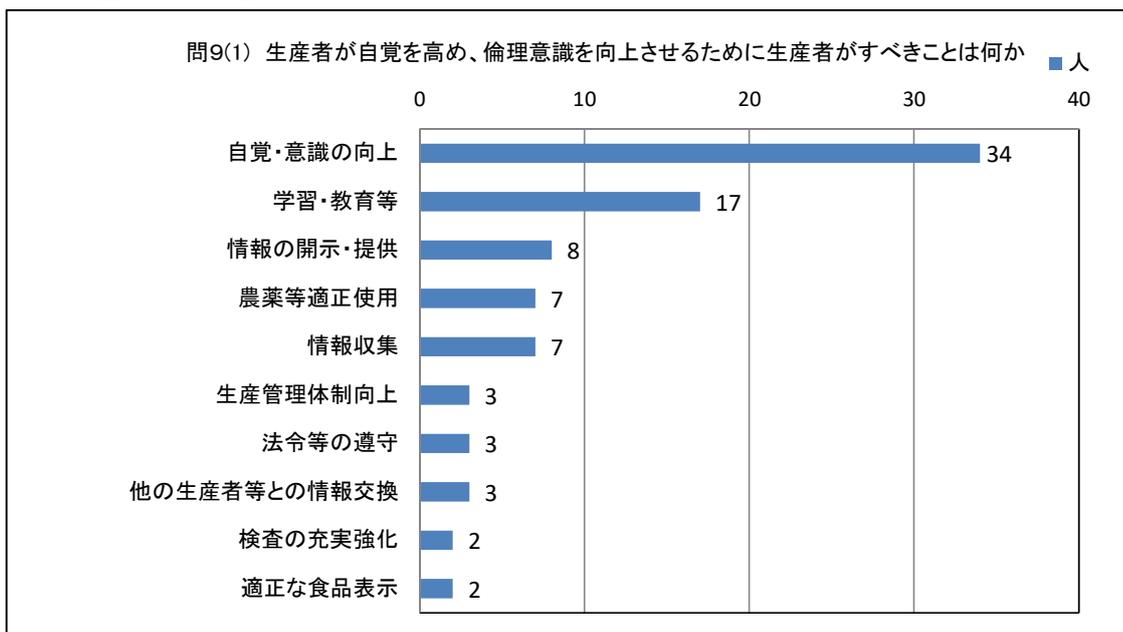
※「その他」の主なもの: 公的な厳しい指導

県民が求める生産者の取組は、④農薬等の適正使用(47.0%、前回39.2%)が最も多く、次いで②生産物等に関する情報の提供(41.5%、前回48.6%)、①倫理意識の向上(40.1%、前回39.2%)の順に多かった。

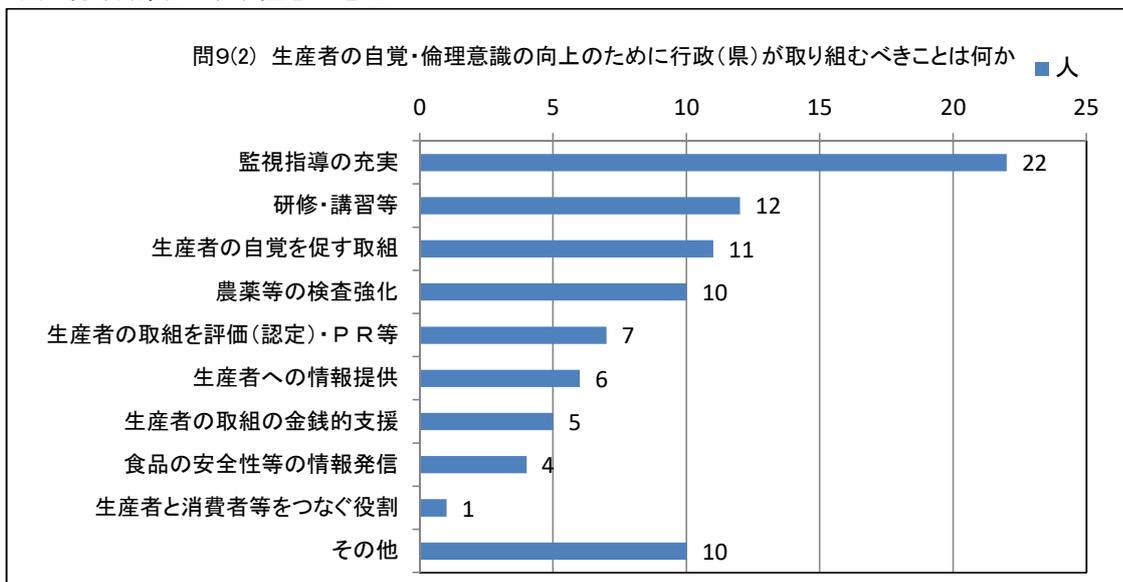
問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



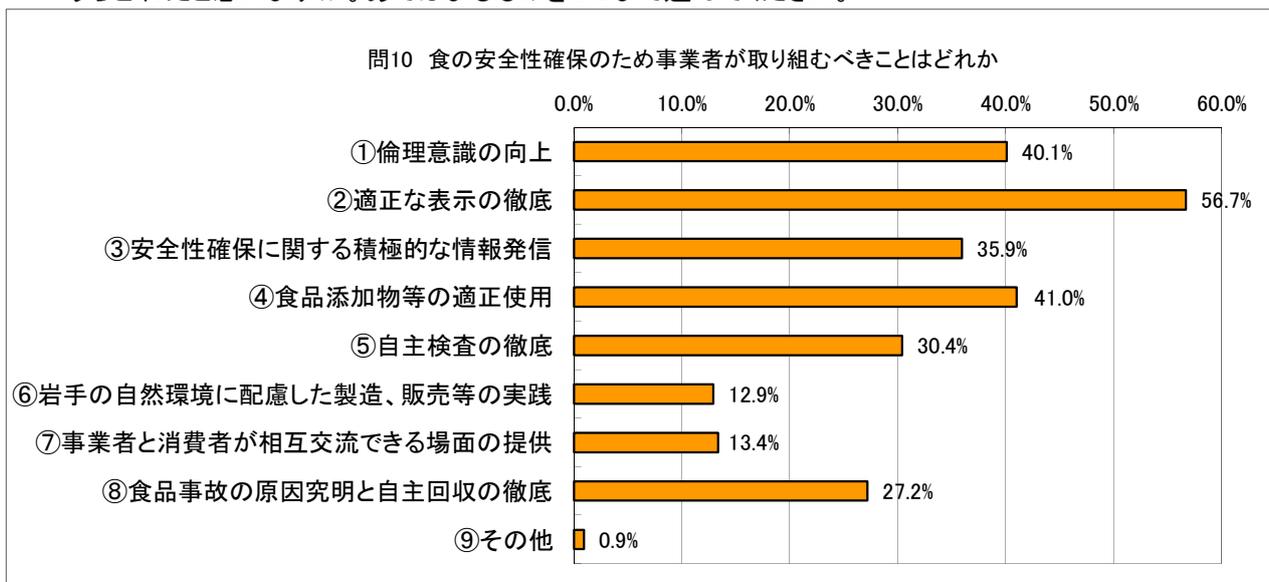
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの: 生産者の経営・運営のバックアップ、地産地消の推進(ポイントカードなど)、農産物のトレーサビリティ等

生産者が取り組むべきこととして、「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、生産者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関することが最も多く(34人)、行政(県)が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(22人)、研修・講習等に関すること(12人)が多かった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



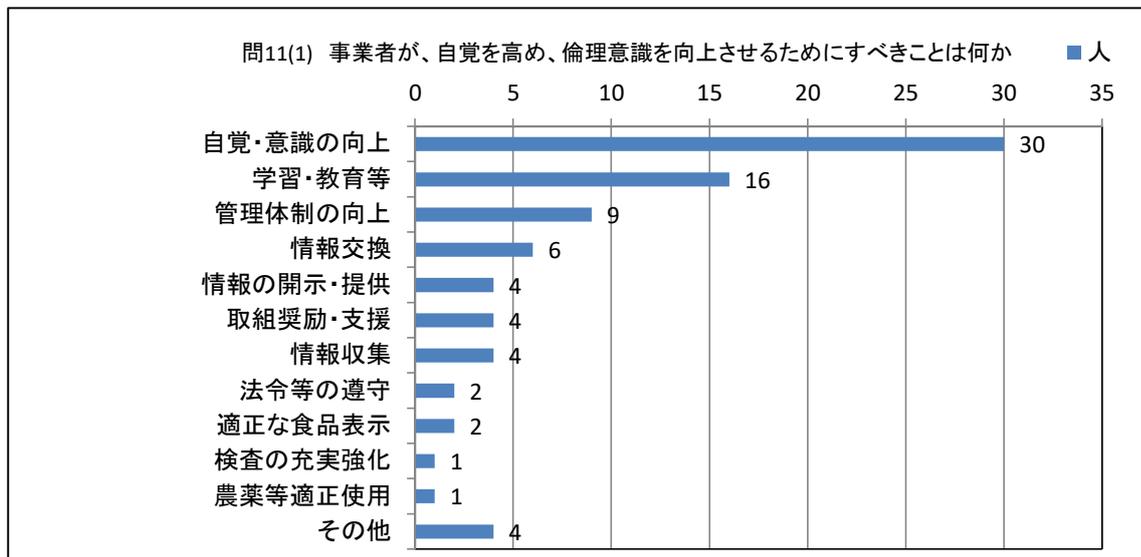
※「その他」の主なもの：経営者の意識改革

県民が求める事業者の取組は、②適正な表示の徹底(56.7%、前回47.7%)が最も多く、次いで④食品添加物等の適正使用(41.0%、前回36.0%)、①倫理意識の向上(40.1%、前回38.7%)、③安全確保に関する積極的な情報発信(35.9%、前回32.9%)の順に多かった。

問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

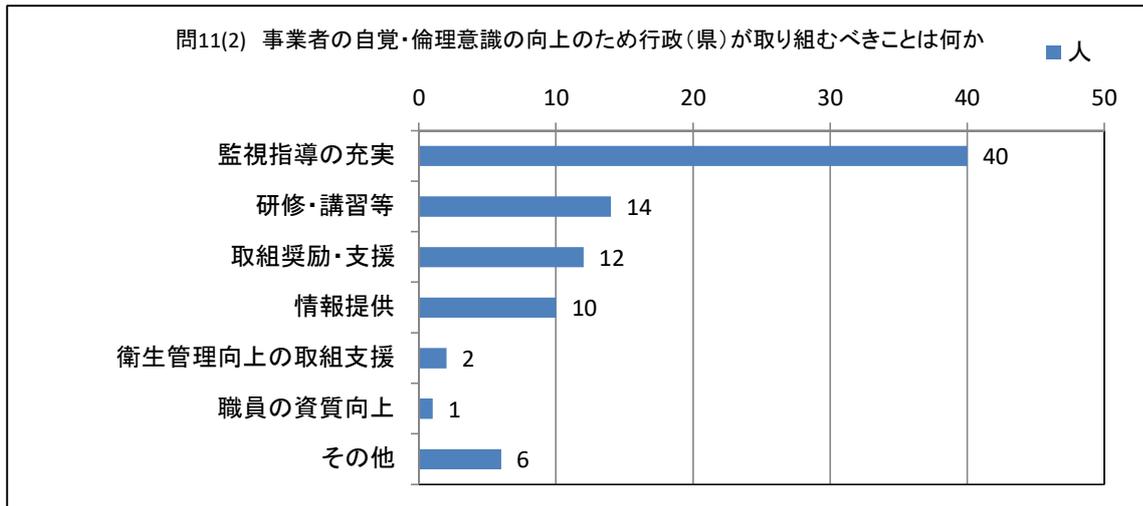
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思いますか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



※「その他」の主なもの：消費者へのアンケート、生産環境の整備、食物アレルギーへの配慮等

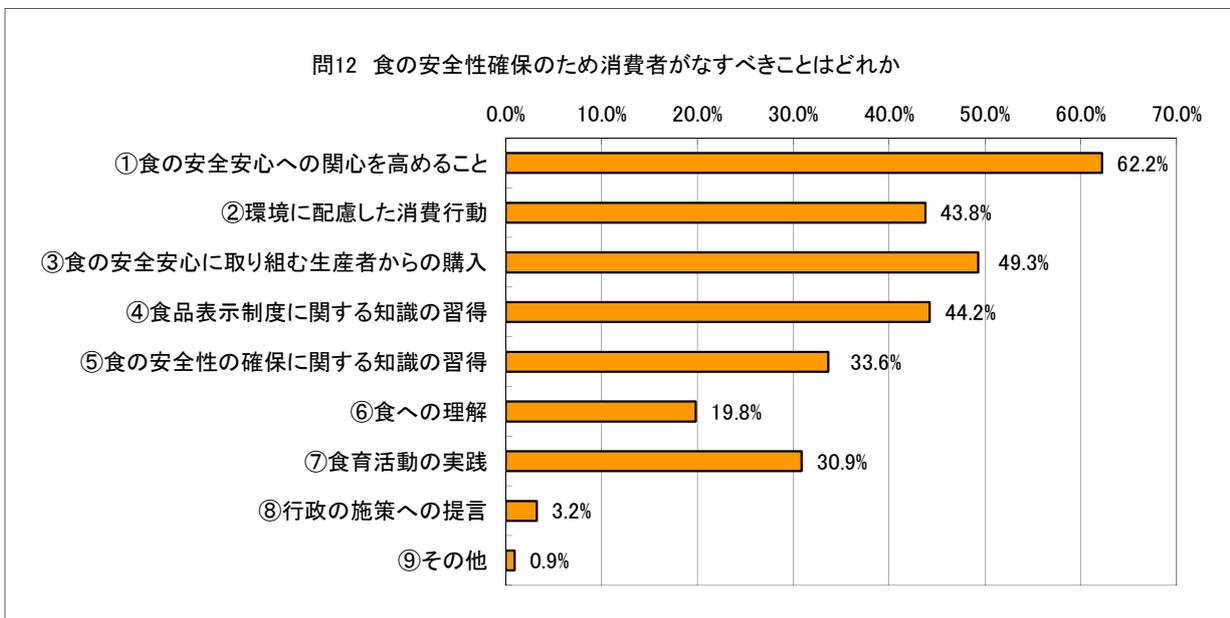
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの: 地域・地区の方々と一緒に取り組むシステム、子どもたちの事業所見学等

事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、事業者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関すること(30人)、学習・教育等に関すること(16人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(40人)が多かった。

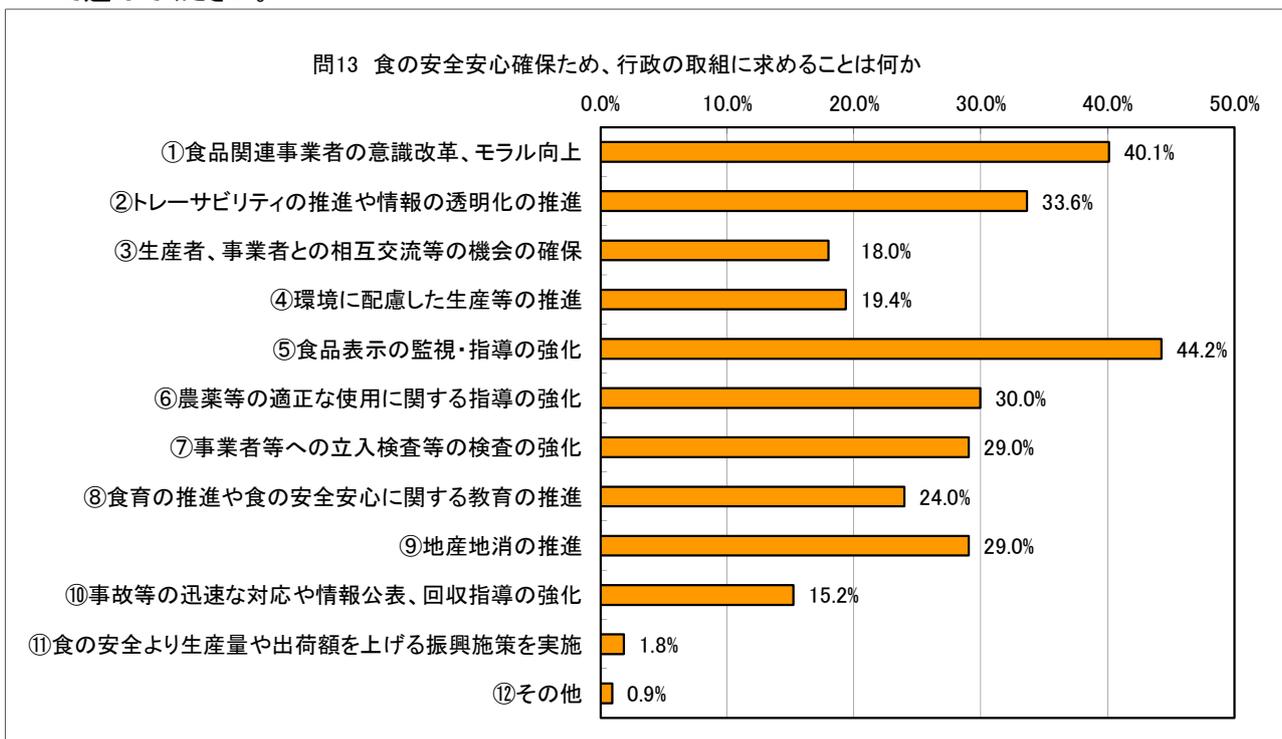
問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 無農薬、食品添加物の無添加を追求する等

消費者がなすべき取組としては、6割程度(62.2%、前回61.3%)の人が①食の安全安心への関心を高めることを挙げており、次いで③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(49.3%、前回55.4%)、④食品表示制度に関する知識の習得(44.2%、前回40.5%)の順に多かった。

問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 提供者の生活安定

行政の取組に求めることは、⑤食品表示の監視指導の強化(44.2%、前回42.3%)が最も多く、次いで、①食品関連事業者の意識改革、モラル向上(40.1%、前回36.9%)、②トレーサビリティの推進や情報の透明化の推進(33.6%、前回32.4%)、⑥農薬等の適正な使用に関する指導の強化(30.0%、前回26.6%)の順に多かった。

問14 食の安全安心について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	各産直で、安心安全な農産物を出荷するために、残留農薬のチェックを推進、実践して取り組んでいるところが増え、消費者側としては心強いと思っています。
2	国内産を選んで買うようにしています。特に肉。外国産は、自分に合うかどうか考えてしまいます。魚は、最近日本近海でとれにくくなっており、とても残念に思います。
3	子どもの頃からの食育教育(学童など)、地域の行事を通しての食育実践。
4	食品の表示の監視をしっかりと、厳しくしてほしいと思います。
5	国産と略さず、きちんと〇〇県〇〇市など表記してほしい。
6	輸入肉の安全性がどのように確保されているのか。国産との違いは何か。
7	食の安全は気になるといろいろとありますが、生産者が自信をもって提供できることが大事だと思います。
8	国内産はある程度信用している。
9	天候に左右されない生産を確立して、食材の安全安心を心配することなく、定期的に安価に購入できるシステムの確立ができるとう嬉しい。
10	食の安全は、今や危機的状況です。放射能、残留農薬、食品添加物への関心、正しい知識の普及を学校の教育現場に取り入れた方が良いと思います。
11	安全な食品を食べようとすると家計に響きます。このあたりを県や国が考えてほしい。家族が少なくとも手にとって考えます。子育て中の家は、まず子どもの安全よりお腹を満たすことを考えると思います。輸入より国内で国民に行き渡るよう、生産できるようにしてほしい。国内生産で国民を守ってほしい。
12	生産者や事業者は、常に消費者の立場になって変わることなく、安全安心な食品を提供していくことが大切であると考えます。
13	産直へ行くと生産者の方々の顔が見える。安心安全そして応援したいと思う。行政には農家が立ちゆけるようバックアップ行政となってほしい。
14	安くておいしいのが一番良いが、生産者のことを思えば難しい。値段が均一であればそうした悩みもないのか？
15	様々なところから情報が得られるが、その情報が本当なのかどうか信用できるか不安になる。結局は、その情報を判断できる知識を自分自身が身につけないとダメなのか。
16	輸入食品の安全性、食品表示の正確性、遺伝子組換え食品の安全性。
17	海外よりも国産、国産よりも県産品を選び購入したいと考えている。生産者が見えることはとても大切。交流をして理解することで、食品ロスを減らすこともできるのではないのでしょうか。
18	自分自身にあまり知識がないこともあり、日常の中で食の安全安心について不安を感じることは少ない。逆に報道などで、初めて知ったり驚いたりする程度である。食の安全安心については、生産者・販売者の適切な取組と情報提供が必要であると思う。
19	岩手の食べ物は安全でおいしいと思っています。これからも消費者が安心して食べられる食材を生産してほしいと思います。
20	スーパーでは、食事の材料より惣菜やレトルト食品などの売上げが伸びているという。コンビニにもお弁当よりも惣菜の売上げが急上昇とのこと。「肉食」という言葉も定着した。心配なのは、食品添加物である。適量に使われているのだろうか。
21	アンケートが始まって以来、気をつけて見ると、店頭に並ぶ食品が国内産なのか、外国産なのか、また、商品に表示されているのが正しいのかどうか疑わしいものが多い気がする。今のところ、確認しようがないのが残念です。
22	日本の業者が販売しているが、生産地が外国の製品については経路が分かりにくく、検査等がしっかり行われているか不安を感じ、なるべく使わないようにしている(主に山菜等)。
23	賞味期限が1か月あるものでも、開封して冷蔵庫に入れてみると、すぐカビが発生する。
24	輸入食品(とりわけ中国)については、心から強い不安を感じています(一切購入していません。)。全品検査が望まれてなりません(原材料含めて)。
25	輸入品について、生産国でどのような環境で作られているか分からないので購入しないようにしている。特に中国産は不安で購入しない。
26	国産、県産、産直、無農薬、無添加、無着色などの表示や製造年月日、消費期限、賞味期限の表示を信用して購入しています。
27	できるだけ、県産のものを利用しようと思っています。特に最近は産直なども多くなり、新鮮なものが手に入るが、同時に安全面はどうかともあります。農協等とも連携をとって県内のものは「安全安心」と言えるよう、表示も含めて力を入れてほしいと思います。

28	加工食品等は使用されている材料、栄養成分、原産地等明記されていますが、大手スーパーの野菜などは不明なので、購入する上で不安な面もあり、なるべく野菜は産直で買うようにしている。
29	生産者・行政・食品関連事業者は、意識改革とモラルの向上など、それぞれの役割・責任を果たし、消費者には安全・安心な食品を提供するという自覚・倫理意識を持って取り組んでいただきたい。
30	産直を利用することが多いです。生産者の顔や声が聞けるところに魅力を感じて利用することが多いです。農薬については少し分かりにくいと感じています。
31	県産の食材や日本の食材はあまり心配はないが、外国(中国)の物は買う気になれない。野菜はなるべく自給自足にしたい。
32	食品の基となる原材料の生産について、また、輸入物について農薬を使わない栽培を徹底することが大事だと思います。
33	気にするときにりがないので、何でもありがたくださいようになっています。農家の意識が上がり、こだわりのある生産をしているところから購入したいです。
34	毎日、安全な食べ物を食べられることに感謝しています。
35	基本的には地元の食材を食べています。また、購入の際には必ず表示を見ます。友達と月1回、減塩の料理教室を行っています。岩手県は全国から見ると塩分を摂りすぎなので、レシピは行政の方にお願ひし、皆で楽しく体に優しい料理を作ってます。
36	県産品は心配ないが、県境を越えて来るものは怪しいものがある。
37	中身を確認できない加工食品は利用しない。
38	地産地消は良いことだと認識しています。国産にこだわりたいところもありますが、安価だったりすると輸入品を購入するときもあります。
39	自分が買い物をするところは、地元スーパーであり、地産のものも買うが(むしろ地産を)、それなりに品質を信じている。
40	生命、健康に直結する食の安全については、生産者側への高いモラルが求められます。消費者も、規格や見栄えだけでなく、食品ロスをなくす意識を持つことが大切だと思います。病虫害の被害のため、農薬等の使用が見えないので心配な面もあります。
41	国産品は安心感があるので、事故があると失望感が大きい。特に生鮮は「中国産」と付いている品は避ける。心配なのは惣菜です。材料に使っていても分からないので、事業者のモラルが試される点です。消費者も考えなければなりません。
42	消費期限が迫っている商品の「値下げ品」は質が悪い。色や形がひどい。
43	農薬の使用が心配。消費者に、安全な野菜は綺麗ではないと教えてください。外国の野菜が怖い。
44	食費はけちらない。安い物は買わない(問題が多いため)。質の良い物を食べるように心がけている。安価なインスタント食品は論外。信頼できるところからの購入。地産地消。自分で食材購入して調理を行う。
45	賞味期限、産地は必ずチェックしています。なるべく日本産の物を食べるようにしています。
46	スーパーやコンビニエンスストア等で、賞味期限切れで投棄されると聞き、もったいない精神で何とかならないものかと思う。
47	食の安全安心について、まず家庭でできることから始める意識を持つ必要があると思います。学校給食も大変大事な食育と考えています。地域の公共施設で調理室をもっと開放して、食育を学べる事業を設けてほしいです。参加しやすいお得感があることが大切と思ってます。
48	消費者団体で食や環境について学んでいるので、いろいろなことを考えながら食品を購入している。でも、そういう人はごく一部なので、食料自給率の高い岩手としてもっと食に関する知識を広く周知してほしい。
49	賞味期限などのシールの貼り替えなどの不正がないかどうか。
50	企業は営利目的だから仕方ないのですが、トップの意識向上が大切だと思います。その上で、従業員の教育が必要だと思います。殺菌する塩素濃度さえ分からない人も多く(他の添加物の割合等も)、上司も確認するわけでもなかったりする現状もあります。衛生面の取組は時間とお金がかかりますが、事故が起きてからでは遅すぎます。最近はまだ大きな事故はないようですが、行政も立ち入り検査とかで指導の強化をすべきだと思います。
51	アレルギー等の事故が多発しているので、体に優しい食材の生産が必要である。生産性ばかりを重要視する時代は終わった。
52	健康の源泉は食であることが私の信念です。
53	コンビニで消費期限が近くなったものを廃棄するのはとてももったいないと思う。値引とかはできないのかなと感じる。

54	特にないが、安全性への心配くらいです。
55	できるだけ国産を買い求めているが、総じて輸入品に比較して高いのが難点である。地元産、海産物(アワビ、カニ、ウニ等)は高級品で庶民の口には入らない。流通、保存等改善されたのは逆にデメリットとなったようだ。
56	輸入品が多いので、もし輸入品がなくなってしまうたら、国内の食品がほとんどなくなるとニュースや新聞で知り、かなり危機感を覚えています。
57	討論会、批判会をやってみれば…。
58	外国と比べても日本はとでもレベルが高いと感じている。若い頃、バイトでまだ食べられる物を大量に廃棄していたが、安全性の追及はすでに他の何かを犠牲にしている領域に達している。
59	少数派ではあると思うが、食物アレルギーに関する情報を聞く。特に穀物アレルギーは命の危険性にも関わることから、各施設(幼保・小学校)への情報指導が必要である。
60	遺伝子組換え食品がよく分からない。
61	マーガリンを売らないでほしい。サラダ油も認知症になるので。物価が高くて食の安全とか言ってもらえない。日々の暮らしが大事。
62	先日、外国産の玉ねぎを買って食べたら、とてもまずく全部捨てた。なぜ、あんな物を輸入するのか。
63	生産者は自分で食べる分は農薬を使わない、日持ちさせるためと見た目の良さのために、ある程度の農薬を使うらしい。それが嫌なら家庭菜園をすればいいのだろうが、やる気がない。
64	あるスーパーに勤めている人が、他のスーパーで生鮮食品を購入しているのを見たとき、そのスーパーにあまり行きたくなくなった。また、商品のパッケージが名のあるメーカーのものとはぱっと見同じで、購入して失敗した経験があるので注意している。
65	食の安心安全に対する関心を高めるための積極的な情報発信。
66	豊食と言われる現代において、大切なことを忘れがちであり、「食べる＝生きるため」を再確認していかなければならない(残食することが多すぎる。)
67	販売者も消費期限をよく守っていると思う。
68	食については、体に入るものなので関心があります。栄養面がやはり一番の関心ごとですが、食品に含まれている表示もよく見ます。それに加え、旬の物や、地元の物がおいしいと思うので、道の駅などをよく利用します。岩手のものは、県民性から信頼しているので、安心して購入していますが、万が一ということもあるので、もし事故があった場合は、県には迅速な情報公開を望みます。
69	身体に悪いので、無農薬、食品添加物(天然添加物を除く)の前面禁止。減塩と野菜多摂取のキャンペーン協力推進(今年度から青森県で、長野県は以前から強力に推進している。)
70	農薬などに頼らず、形は様々でも安心して食べられるものを作る生産者を支えられる消費者でありたい。加工食品も同様に、食品添加物を使用せず、本当の味で勝負する会社を選び、購入する賢い消費者でいたい。常に関心を持ち、学ぶ姿勢で食に向き合い生きていきたい。自分の「命」に尽くす義務が人間にはあると思いますものね。
71	岩手県では、10年以上前から地産地消の取組を推進しています。地産地消によって、できるだけ県内の地域で取れた食材を食卓に届けようとする意識が高まってくると思う。生産者が消費者に対し、安心・安全で良質な食材を提供することが大切だ。
72	なるべく県産品、産直品を利用しています。地元生産者を信用していますので。
73	食品添加物の危険性を日々感じていますが、一般的には知らされることなく、CMなどで、あたかも体に良さそうなものとして流されています。メーカーの利害に関係するためか、あまりにも無防備すぎます。特に人工甘味料、アスパルテーム。これは甘味料の中で最も危険性の高い毒物の一つとされています。味の素のパルスweetも同じものであり、コーラやヤクルトなどほとんどの飲料物に入っています。次にショートニングの問題。これも人工油脂で、製造過程の中でトランス脂肪酸が発生します。これもあらゆるものに入っています。子どもたちの身に大きく影響していることは間違いありません。
74	自分で育てた野菜やハーブを無農薬で育てています。去年は、人参、花豆、しそ、スイカにもチャレンジして、ミニトマトも去年は寝かせ植えで、甘くて大収穫でした。自分で育てると新鮮で安全で良いと思います。ハーブの育て方等を指導していただく場が消費者にもあれば良いと思います。少しのスペースで沢山の量や種類を育て、生産者と交流する農園などがあれば良いと思います。短大跡地がそういう場になってくれれば良いと思います。健康に良い野菜やハーブを育てて誰もが(県民)参加できると良いと思います。

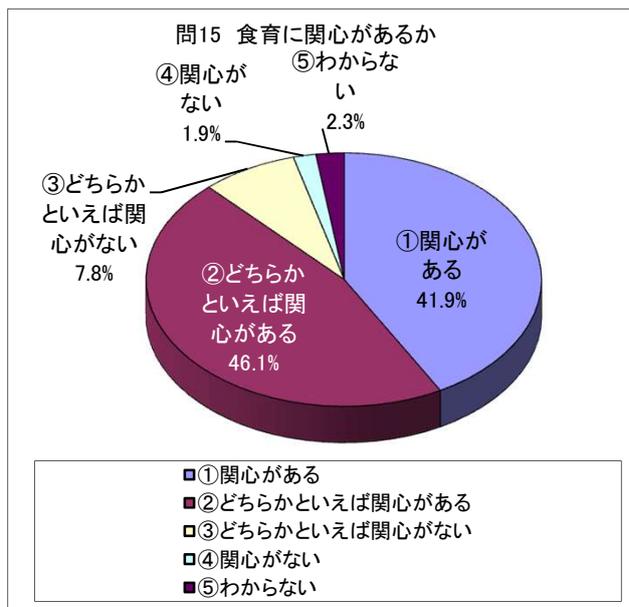
75	中国産食品は絶対に購入しないようにしている。現地で加工業者を視察したことがあるが、国民性と言えばそれに尽きるが、全く倫理感はない。何故輸入されているのか理解に苦しむ。「節分」の豆の代用、落花生などは食べられたものではない。
76	食品添加物をなるべく避けて、食の安心安全を確保したい消費者が存在する以上、食品表示という形で、正確な情報を開示するべきだと思う(食品添加物を使用している場合は、すべて表示する。)
77	どうして、このような案件が市民・県民へ提言されるのか疑問である。元々、口にする食物は「安全」であることが第一に優先されるべきで、提供する側は渾身の努力により思いやり、消費する側はその心を敬いいただく。最も生きるための原始的な行為をマテリアルな考え方になってしまっている今が悲しい。
78	安全なのは分かっている、つい食品の裏を見てしまいます。私だけではなく、何人もの人が私と同じことをしています。そういうのをなくすためにも、安全安心をちゃんと知ってもらえるようにしたら良いと感じています。
79	外国からの輸入にあたって、きちんと調べてから輸入していただきたい。
80	消費者の消費行動が、食の安全に直結しているという共通認識が求められていると感じる。
81	県産品については特に心配していませんが、輸入のものについては購入することを控えるようになりました。子どもが成長過程にあるので、できるだけ不安が残るものは食べさせないように心がけています。
82	産地、生産者、事業者、輸出入の情報管理の指導。郷土料理の復活、日本料理の復活、食の見直し。
83	岩手県の食品は、生産者の努力もあり、品質の良いものがたくさんあると思います。食品の取扱いも、安全性が保たれているように思います。生産者の生の声が聞けるので、そう感じるのだと思います。交流の機会があるのは、食物に感謝する機会にもつながると思うので、これからも続けてほしいです。まずは、地産地消、岩手の食材の美味しさを県民が知っていることも大切な気がします。
84	平成29年度も、いまだに放射性物質が基準を超えるもの(福島以外の各地)があったという。県内でも、来年度以降も検査を続けてほしい。
85	放射性物質、ダイオキシン、残留農薬、遺伝子組換え食品など心配です。子どもたちには、少しでも汚染が少ないものを食べてほしいです。周りにはあまり気にしている人がおらず、会話に出してもスルーされます。
86	産直などで売られている手作りの食べ物(個人で出品しているもの)について、失礼ですが、衛生管理がどうなっているのか心配です(手洗い、調理器具の消毒等)。
87	今の生活水準から、つい安いものに手がいきってしまい、安全・安心は二の次になってしまっている。
88	1年前にもこのモニターをやっていて、今回のように「食の安全」についてのアンケートがあった。後日、回答の内容を見た際に、残留農薬について書かれていたことにびっくりした。生産当事者が、残留農薬のあるキュウリを皮を剥いて食べているという記事でした。あまりに衝撃的でした。健康のため、それまでは人参、ごぼう、大根、りんごなどつとめて皮を剥かず、調理、食していましたが、そのことを知ってから、皮を剥くようになりました。県産品には「安全性」を求め、信頼して購入していましたが、今は何を信用して買えばいいのか分からない状態です。
89	特にありません。問題なく買い物しています。
90	食材の生産、流通過程に関心を持つ。風評被害に加担しない。
91	店頭では、賞味期限が切れると、多くの食品が廃棄されている。食品廃棄の削減にもっと取り組んでほしい。
92	加工品の表示が果たして正しいものかどうか、常に疑問に思っている。
93	生産者に対する行政の管理体制を強化することにより、生産者の意識向上を図るべきだと思う。
94	スーパー等に海外の物が多くなっているが、安全なのか不安である。産直での買い物が多くなっています。
95	価格の安い食品、特に中国産の食品に対する不安、不信。
96	海外のものは、やはり安全性を信頼していないことが多く、怖いと思うことがある。
97	岩手県の良き自然環境を保護して、安全な食品の供給に資する。
98	例えば、中国産食品(加工食品を含む)のずさんな生産・管理などの情報を見るたびに、輸入食品を購入するときは気をつけているが、それでも絶対安心ではないと思っているので不安である。
99	生産者の情報がしっかりとわかる産直で購入することが増えた。
100	表示の曖昧さがあり、魚で例えると、「外国産白身魚」だけでは何の魚か分からない。

101	地元のもの食べたいといつも思っています。
102	料理に手(時間)をかけない人が多くなっている。自分や家族の食事は市販の品に頼らない努力が大切だと思います。
103	野菜等に〇〇県産と(袋)表示がないものもある。
104	食品表示(アレルギーの素となる食品)、添加物等は袋の裏面でなく表面のもっと消費者に目立つ場所に表示したら良いのではないのでしょうか。
105	表示が本当なのか分からないことが時々あります。
106	食物自体やその製造の安全性は当然のことと思われるが、それらの調理方法(岩手は塩分過多)などについても県全体で、家庭だけでなく、飲食店を指導することも考えていくべきと思う。減塩メニューの創作などの提案(一般に味つけがしょっぱい店が多い。)
107	子どもも食べるものとか、今はいろいろあって全部調べるなどほとんど無理がある。そのため、行政がしっかり指導して、生産者のモラルや知識の向上も求めたいと思います。スーパーで地域の方が売っているのもちゃんと検査しているのか、買わないけど不安を感じます。
108	家族が多いので食費を抑えたいのが実情ですが、体に悪いものや安すぎるもの、不安を感じるものだと本末転倒なので、やはり適正価格で手に入れるためには、自分自身もしっかり情報収集しないとイケないと思っています。
109	地産地消を心掛けている。信頼のもと買い物をしているが、表示内容と現物に相違があるとしたら、どうしようもない。ただし、消費者もある程度、食に関する知識は必要だと思う。
110	アレルギーがあるので、食品の表示はしっかり書いてほしい。
111	輸入食品の安全性については、もっと監視を強化してほしい。産地偽装などには、厳しい罰則が必要である。
112	岩手県は食料自給率も高く、県内に住んでいる限り、県産食材で大半の物を賅えることが非常に良いと感じている。一方で、気候により岩手県での生産に適していない食材については、県外、外国産に頼るしかないため、そういった場合など特に注意して購入するようにしている。
113	今まで生きてきて農薬などで影響があったことはないので、安心して食べています。しかし、ニュースなどで見れていないだけで、実際に事件はあるのかと普段思っています。テレビでニュースを見ないことが多いので、それでも分かるよう情報展開してほしいです。店にもポスターを貼るなど。今まで問題がないのであれば、岩手県は地産地消に関しては、本当は素晴らしいと思います。
114	海外からの輸入食品を特に心配して気をつけています。生産者や製造業者などが、安心して生産や製造ができる環境作りが大切だと思う。
115	地産地消を推進することが、食の安全安心の第一歩だと考えているが、安価な食品は輸入品が多く、地場あるいは国産食品は高価なものも多く、消費者としては選択に悩むことが多々ある。安全安心(ルートの明確)な地元(国内)の食品を安価に提供するようなシステムを早急に構築してほしい。
116	東日本大震災津波以降、原発問題が派生した時点では、それがもたらす食への影響を大変心配しましたが、同時に生産を生業とする方々の生活も気になりました。何か問題が発生した場合、一刻も早く正確な情報と生産者への早急で適格な指導を希望します。
117	食の安全とは離れるが、食品表示とパッケージ表現の違いが紛らわしい。例として乾麺の蕎麦は岩手の名産品だが、小麦粉が多いにも関わらず「そば」と書いてある。実際にはそば粉入りのうどんではないか。魚に例えると、イワシなのに鰯と書いているようなものである。実際の市販品には、「そば粉・小麦粉」表示の乾麺を探すことは難しい。消費者を欺いている業者が多すぎる。岩手県として「岩手県産品特選マーク」などを考えてほしい。
118	安いものが良いという気持ちで食品を購入すると、質や味が落ち、安全性もよくわからない輸入品になってしまう。輸入品に頼らず、地産地消が盛んになるよう、そして自給率が高まるよう何か仕組みがあると良い。農家を応援、支える仕組み。エシカルとは、この頃聞かされた考え方だと思う。
119	地産地消とは、知事をはじめ県行政のPRなどでもよく言われていることです。とても良いことだと感じます。食べ残しをしないことは勿論のことです。盛岡市や県南の市街地以外では、地元農家の野菜や果物など交換しあったりしているところが岩手県の田舎の良いところなのかもしれません。安易に食品分野へのTPP参加は反対します。
120	特にありませんが、問題事例が起きた際の対応が若干遅いと思います。
121	肉はなるべく国産のものを買うようにしていましたが、どうしてもたまに安さが魅力的な外国産を買うこともあります。野菜も国産で高いものは、外国産や冷凍野菜などを使用します。安全と安さは正反対にあるものですが、なるべく安全なものを買いたいのは、みんなそうだと思います。もっと、外国産がどれほど危険なのか、国産や県産が優れているかを知り、自信を持って県産、国産のものを選びたいです。
122	食は安全という意識でいたので、もっと関心を持つことの必要性を感じた。

123	作ることの大切さ、消費者も、畑、海に出かけ、いろんなことを共有することで、いろんなことがわかる。行政も体験すれば、生活保障のことや安全なことや問題が見えるはず。
124	偏見なのか、生産地が中国と記載されると購入を悩みます。
125	まずは産地の表示や食品添加物などの表示に、虚偽や間違いがないように企業に気をつけてほしいし、虚偽表示などがあった場合は罰則を与えてほしい。その上で、消費者はしっかりと知識を身につけ、表示を見ながら食品を購入したい。それとは別に、食品事故、食中毒事案についてきちんと行政が対処してほしい(消費者への情報公開。食品事故を起こした企業以外にも詳細を公表し、以後、同じような事故が起きないように対策を指導するなど)。
126	農薬や食品添加物の全否定、福島産農畜産物の忌避に豊洲新市場へのゼロリスク要求など、行き過ぎたゼロリスク信仰を求める一方で、食中毒や慢性肝炎のリスクが高い生肉食ブームに加担するマスメディアに呆れている。
127	県産食品は安全だということを消費者にもっとアピールするべきだと思う。
128	三食の食事を大切にす。
129	外国産より国産品。国産品の中でも、特に地元岩手の食材を購入して食べたいという気持ちが強いです。地元の生産者さんの心のこもった思いが伝わってきて、ぜひ応援したい気持ちと、感謝の気持ちでいっぱいです。食材に安心感があります。もっと県外の方にも、良い岩手の食材を知ってほしいですね。
130	震災以降、三陸の海でも変化が起こり、魚が捕れない状況の中、三陸の海の幸を求め、観光客がやってくるが、地元の物ではない物の提供が多いような気がする。地元スーパーや観光施設でも冷凍の魚介類の提供が多い。
131	農薬や食品添加物は使わざるを得ないとは思いますが、どれだけ使われているのかがとても不安。

問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

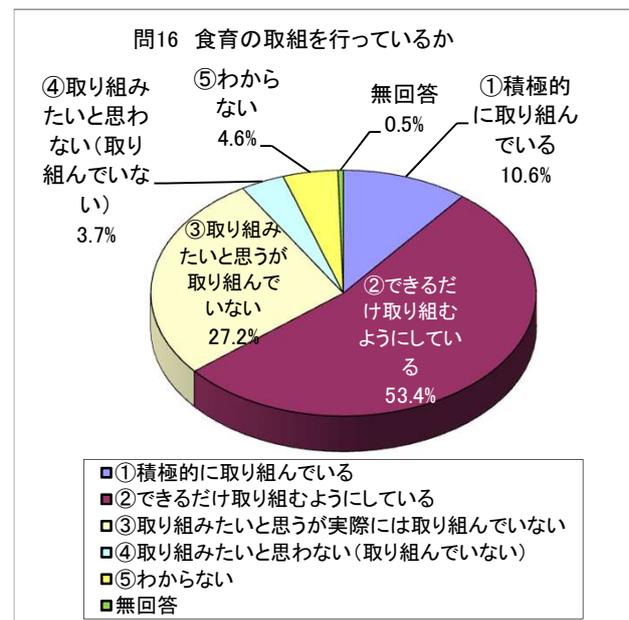
①関心がある	91
②どちらかといえば関心がある	100
③どちらかといえば関心がない	17
④関心がない	4
⑤わからない	5
計	217



食育に関心がある人は88.0%(前回85.1%)であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

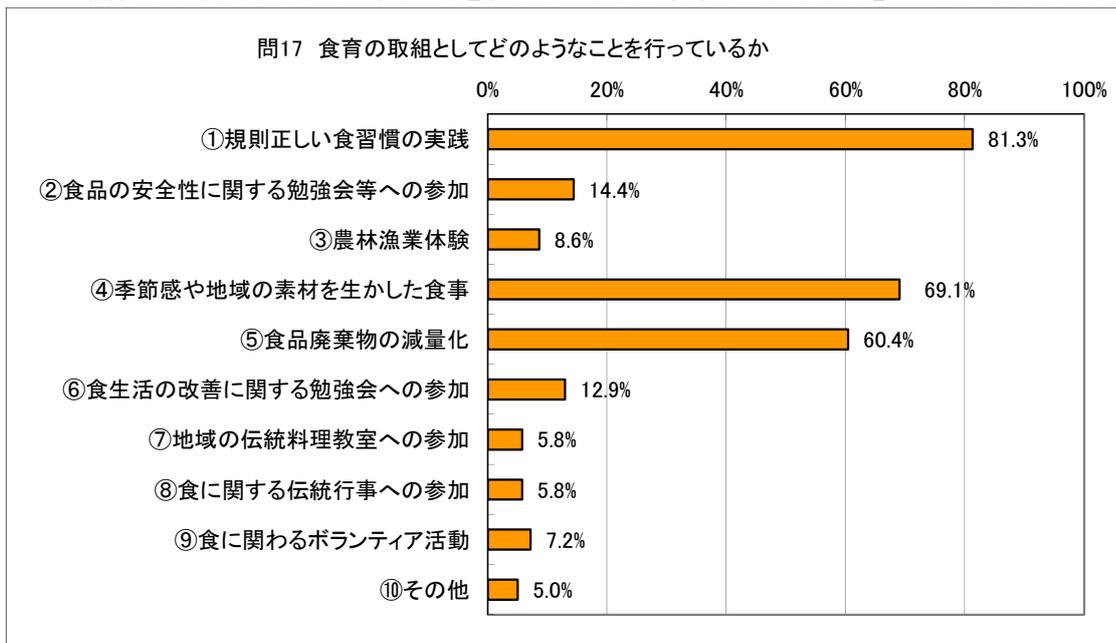
問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組んでいる	23
②できるだけ取り組むようにしている	116
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	59
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	8
⑤わからない	10
無回答	1
計	217



食育の取組を行っている人の割合は64.0%(前回63.5%)である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が約3割(27.2%、前回26.1%)に上り、引き続き、食育の重要性について周知し、取組を促すことにより、食育の取組の拡大が期待できる。

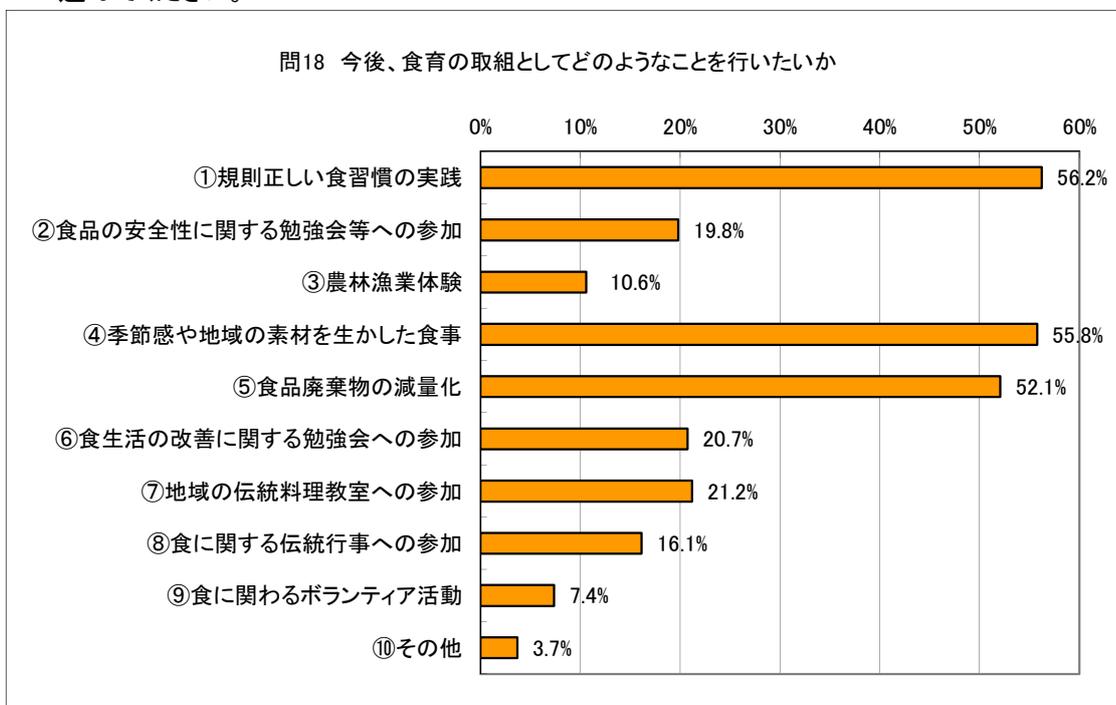
問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。  
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: 幼い子どものときから食の大切さを話す、管理栄養士等からの情報・指導の実践、自分で野菜を作る等

食育の取組として行っていることは、①規則正しい食習慣の実践(81.3%、前回83.0%)が最も多く、次いで④季節感や地域の食材を生かした食事(69.1%、前回77.3%)、⑤食品廃棄物の減量化(60.4%、前回58.2%)の順に多かった。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

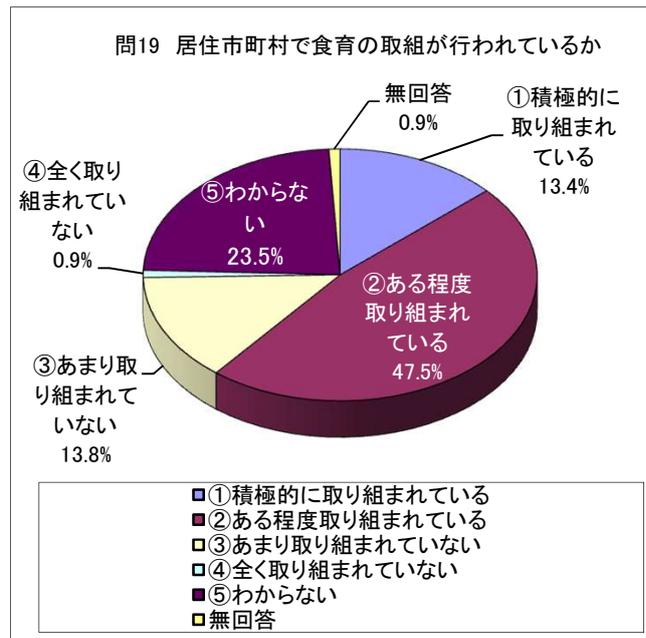


※ 「その他」の主なもの: 家族そろっての食事の中で子どもにその大切さやありがたさを伝える、情報に基づく実践に心がける等

今後、食育の取組として行いたいことは、実際に行っている取組での回答と同様に、①規則正しい食習慣の実践(56.2%、前回58.6%)が最も多く、次いで④季節感や地域の素材を生かした食事(55.8%、前回57.7%)、⑤食品廃棄物の減量化(52.1%、前回47.3%)の順に多かった。

問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

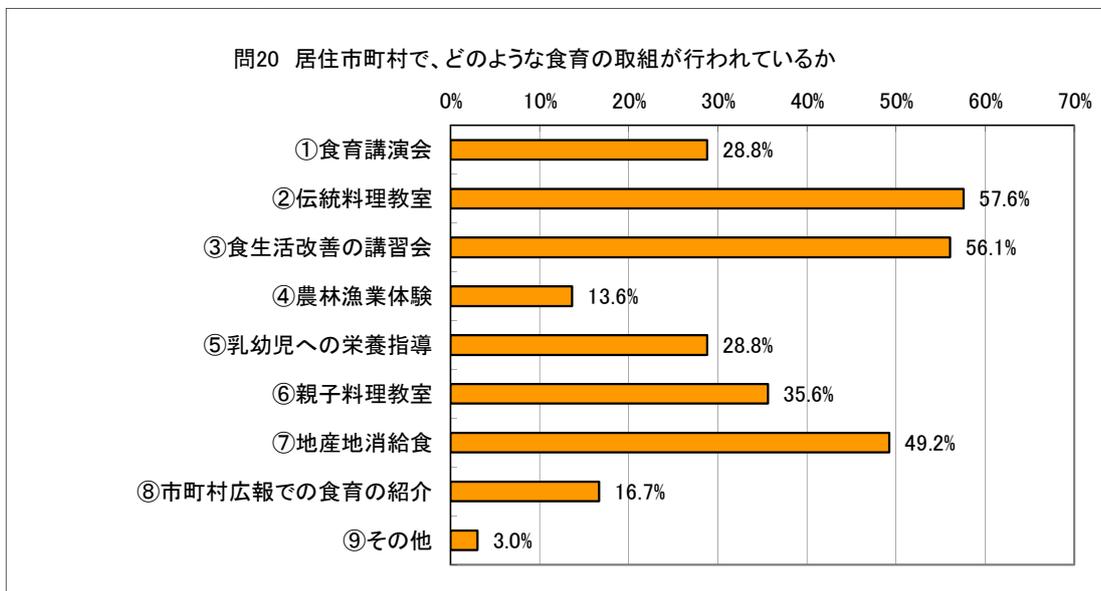
①積極的に取り組まれている	29
②ある程度取り組まれている	103
③あまり取り組まれていない	30
④全く取り組まれていない	2
⑤わからない	51
無回答	2
計	217



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は60.9%（前回64.4%）と前回より減少した。また、取組の有無が分からないという回答が23.5%（前回18.5%）と前回よりも増加している。

問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きします。

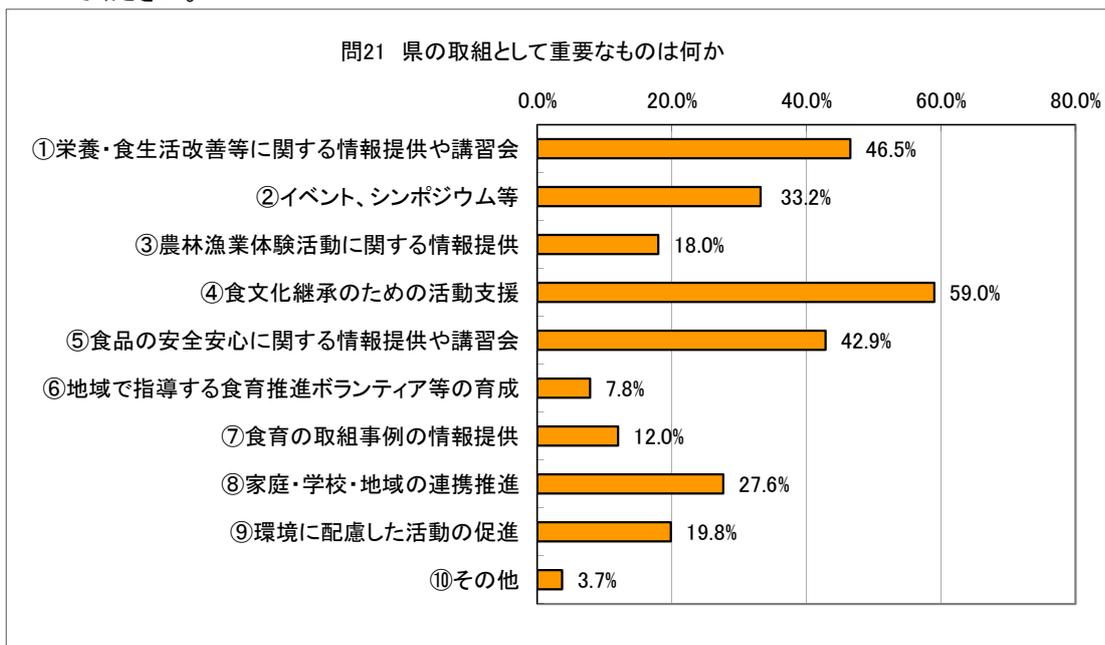
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの：薬膳料理により身体の仕組み、食の大切さを学ぶ会、健脳食や減塩食の食事会等

居住市町村の食育の取組内容は、②伝統料理教室(57.6%、前回51.7%)が最も多く、次いで③食生活改善の講習会(56.1%、前回61.5%)、⑦地産地消給食(49.2%、前回54.5%)の順に多かった。

問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの：スーパー等で消費者に直接PRする、伝統文化の保存と発信、母親が朝食・夕食を作らずに、学校給食で一回の栄養を摂っている子どもをなくす等

県の取組として重要なものは、④食文化継承のための活動支援(59.0%、前回46.8%)が最も多く、次いで①栄養・食生活改善等に関する情報提供や講習会(46.5%、前回45.0%)、⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(42.9%、前回45.5%)の順に多かった。